

「沖繩戦学び平和想像を」

東京・立大 牛島貞満さん講演

【東京】立教大学池袋キャンパスで23日、「沖繩を学ぶ・沖繩から学ぶ 今を生きる人たちが考えたいこと」と題した講演会が開かれ、約100人が聴講した。講師は、沖繩大学地域研究所特別研究員の牛島貞満さん（元小学校教諭）が務めた。

体験者証言交え詳細に

「くちはならない」と語りかけた。

牛島さんの祖父は、アジア太平洋戦争における日本軍第32軍司令官の牛島満中将。牛島さんは「過去の記憶が曖昧なままでは、未来の戦争を防ぐことはできない。正しい歴史認識を持つことが平和への想像力となる。これを沖繩戦から学ばな



艦砲弾の破片を手に話す牛島貞満さん＝23日、東京都の立教大学池袋キャンパス

司令官の最後の決断は間違っていたと指摘した。今回の講演は、同大の教職課程の一環として企画され、牛島さんは教育現場での授業構成についても具体的な工夫を紹介した。米軍の艦砲弾の破片や、牛島さんが自作した首里城地下の32軍司令部壕の模型も使い、参加者が戦争の実相を身近に感じられる内容となった。

講演会を主催した同大文学部の逸見敏郎教授は「若い世代が沖繩の戦争体験をいかに自分ごととして考えられるか、その仕掛けづくりが重要」と話す。同大はキリスト教教育の観点から、学生を対象とした沖繩でのフィールドワークを毎年開催し、平和を考え継承する機会としている。

（玉城久美子首都圏通信員）

©琉球新報 無断での転載、改変、複製、頒布を禁止します